

かわらぐちぼうじゅういせき

河原口坊中遺跡

(海老名市No.52 遺跡)

調査期間

20100101～20100930・
20110301～20111231

所在地

海老名市河原口

時代

弥生
古墳
奈良・平安
中世
近世



作成日:20110518 更新:20120425

概要

神奈川県厚木土木事務所による相模川河川改修事業に伴って実施された発掘調査です。関連事業による調査は平成18～23年度まで断続的に実施しました。場所は海老名市市の西部、JR相模線・小田急厚木駅の北西約1kmに位置し、市域の西縁を南流する相模川中流域左岸に沿った、標高21～22mの沖積微高地に立地しています。遺跡の所在する河原口地区は小鮎川・中津川が相模川に合流する三川合流地点の東岸に当たります。

出土品整理作業を行っているⅡ地区およびⅡ⑤地区は、平成22年1月1日から途中中断をはさんで平成23年12月31日まで発掘調査を行いました。弥生時代～古墳時代前期の竪穴住居94軒、竪穴状遺構5軒、奈良・平安時代竪穴住居22軒、竪穴状遺構8軒、中世掘立柱建物址1棟、溝、近世の畝納遺構などの遺構と、弥生時代～近世の遺物が発見されました。近世の畝は調査区全域で発見され、奈良・平安時代の多くの竪穴住居とともに、土錘を多量に出土した土坑もあります。古墳時代中・後期の溝も発見されています。弥生時代～古墳時代前期の竪穴住居は狭い面積から数多く発見され、多数の切り合いをもっています。当時、河川が交通の手段として重要な役割をもっていたとするなら、この地が交通の要所であったのでしょうか。

現在も、出土品等整理作業を実施しています。



▲ 10号竪穴状遺構(奈良・平安時代)



▲ 中世～奈良・平安時代の調査面



▲ 畝状遺構全景(近世)